

〈顔〉 18.1 x 24.4 cm / 木版多色刷 紙 / 1926 (昭和元) 年



〈春の伏兵〉 23.5 x 32.9 cm / 木版墨刷 紙 / 1924 (大正13) 年



1920's

宇都宮での生活、 版画家としての始まり。

午前は英語の教師を、午後は野球部の副部長を任せられ、好きな詩と版画に打ち込める時間が限られていた澄生。日本創作版画協会展に入選してからは、夜の僅かな時間を使いながら、本格的に版画を制作する。彼が28歳の秋、関東大震災で被災した父の英一郎と弟の成多が宇都宮に移ったことを契機に姿川村(現・宇都宮市)に家屋を新築し、「林花居」と名付けた。1924(大正13)年、第4回国画創作協会展に『春の伏兵』を出品。翌年には、澄生を中心に地元の教員仲間で作成された

「村の版画社」を結成し、版画誌『村の版画』を創刊。後に平塚運一、深沢索一らも加わった。この版画誌は、1934(昭和9)年までの約9年間発行される。また、「頭がハリネズミのようだ」と「ハリさん」という愛称が付けられるほど生徒からも慕われていた彼に憧れた生徒達が集まって創刊された版画同人誌『刀』は、澄生はじめ、教職員も加わり、休刊と復刊を繰り返しながら、1940(昭和15)年まで続く。澄生はこれらの誌面に自らの作品を掲載するなど、創作活動に積極的に打ち込んだ。



的 三部作の内〈当る〉
20.8 x 31.0 cm / 木版多色刷 紙 / 1928 (昭和3) 年